

②近隣住民の日常的な休養・運動の場とする

③災害時には避難場所とする

復興小公園はこうした主旨のもと、多目的な利用に供されることが共通していますが、全体構成やデザインについてはそれぞれ異なる独自の設計がなされています。なかでも、元町公園にはきわめて充実した造形デザインと空間演出が見られます(陣内 1992)。そのことについて、開園当時を振り返り検証するうえで格好の資料となるのが、東京市役所が制作した「元町公園案内」です。縦233ミリ・横158ミリ大、二つ折りのリーフレットで、公園に関する詳しい記事のほか、平面図・鳥瞰図等の図版を掲載し、設計・デザインの詳細を知ることができます。

2 元町公園の構成とデザイン

では、「元町公園案内」にしたがって園内を見てみることにしましょう。元町公園は本郷区元町一丁目3番地(現本郷1-1)、市電通り(外堀通り)に面した高台に位置し、面積は3,519.5平方メートル、土地の高低差を活かし南北を2段に分けた構成としています。

まず、市電通り側に配された正門から階段を上ると、正面にアーチを並べた土留壁があらわれます。その中心部に取り付く壁泉を軸として左右に展開する階段上の小広場には、南側の崖上に藤棚(パーゴラ)、西側の奥には半円形の露壇(テラス)が設けられ、眼下に飯田橋・九段下方面、遠くは富士山から秩父連山までの眺望が得られるよう設計されています。東側の小広場に樹木を正方形を描くよう配し、その中央に飲用水栓を設けるなど、休憩場所としての用途を想定して心地よい空間とするための配慮が窺えます。

西側の小広場からカスケード(水階段)を上った先には、大広場(自由広場)が広がります。両脇にパーゴラを備えた休憩所と植樹が整然と配置され、近隣住民のレクリエーションから防災訓練といったイベントまで対応できる開放的な空間にまとめられています。

その東側の一段下がった一角が児童遊技場となり、左右対称のデザインに仕上げられた滑り台のほか、遊具と植樹の絶妙な組み合わせが生み出すシンメトリカルな空間構成は、きわめて完成度の高いものといえるでしょう。

このように西洋の造園設計にならながらも、斬新なデザインの構造物と植樹を効果的に配し、独創的な空間演出がはかられていることがわかります。「元町公園案内」によれば、公園のいたるところに植栽された植物は、イチョウ・ヒマラヤスギ・スズカケ・サクラといった樹木が27種

246本、株物は32種1,926株にもおよび、モダンであると同時に風致に富んだ空間でもありました。

3 小学校と一体となる設計

大広場の北側の豊かな木立の向こうに隣接する元町小学校の建物が見えますが、52ヵ所の復興小公園はいずれも隣接する小学校と一体として計画されています。こうした小学校は「震災復興小学校」と呼ばれ、災害に耐え抜く強度をもった鉄筋コンクリート造の新しい校舎は、震災復興のシンボルでもありました。

元町小学校は昭和2年(1927)12月に竣工し、ほかの復興小学校と同様、廊下や教室の窓は採光を考慮して大きくひらかれ、スチーム暖房による全館暖房、水洗式トイレの完備、理科室等の特別教室を多く設けるなど、当時としては最新の設備をほこっていました。また、この時期に建てられた小学校には意匠を凝らしたものが多いのですが、平面を「四」字を積み建ち上げられた元町小学校の校舎の外観は、飾り気のない「質実剛健」なスタイルに仕上げられ、デザイン性の高い元町公園とはほど良いコントラストをなしています。

小学校と公園とは、背の低い塀と門扉で隔てただけで、必要などときには一体にして使用することができました。そうすることで、大広場は学校の運動場として活用することができ、公園内の多種多様な植樹は自然観察のための最適な教材となりました。「元町公園案内」の掲載図をよく見ると、大広場の一角に鳥小屋が確認されますが、これも自然教育の一環として設置されたものでしょう。

それだけにとどまらず、学校に通う子供たちと近隣住民が日常的に交流できる場にもなるのです。公園と小学校とを一組とする設計には、そのような理想もこめられていたに違いありません。

おわりに

戦後、震災復興小公園は各区への移管が行われ、その後の改修工事などによってしだいにそのすがたを変えていきました。こうしたなか、元町公園は開園当初とほとんど変わらない状態で残されており、昭和60年(1985)には改修工事が行われ、戦争中に金属供出によって失われた美しい装飾のある門扉や欄などが復原されています。平成10年(1998)に統廃合となり区立小学校としての役割を終えた元町小学校の建物の外観も、当時とほとんど変わらない状態で残されており、昭和初期のモダンデザインの息吹と都市計画の理想を感じることものできる貴重な文化遺産といえるでしょう。平成18年度学習企画展では、このような街角の歴史的建造物・造形デザインを取り上げて紹介する予定です。

(北田建二)

〈主要参考文献〉

- 陣内秀臣 1992「東京の空間人類学」ちくま学芸文庫
末松四郎 1996「東京の公園通誌」下(改訂版)財団法人東京都公園協会
文京区土木部公園緑地課 1997「緑・こころのやすらぎ ぶんぎょうの公園と緑地」(増補改訂版)
藤沢明 2001「東京都市計画物語」ちくま学芸文庫



元町公園 正門